

岡山県高等学校体育連盟弓道専門部主催大会の感染防止対策一令和3年3月改訂版一

岡山県高等学校体育連盟
弓道専門部

岡山県高等学校体育連盟弓道専門部が主催または主管する大会等は、以下に示す感染防止対策を講じて実施する。この感染防止対策は、「スポーツ庁ガイドライン」、「文部科学省・岡山県教育委員会の通達」、「(公財) 全日本弓道連盟ガイドライン」、「岡山県弓道連盟ガイドライン」に基づいている。なお、これらの指針が変更された場合は、それに応じて内容を変更する。

1 参加者の体調管理

顧問教員は、大会参加を予定している者の体調（発熱の有無、からだの不調）と行動を大会2週間前から把握しておく。（記録を残しておくことが望ましい）

発熱等の風邪症状がみられる場合は参加させないように徹底する。また、同居する家族などに感染が疑われる方がいる場合は顧問と相談して参加を見合わせる。大会等の開催前に、校内で生徒や教職員に感染者が発生した場合は、安全が確認されるまでの間は、感染が確認されていない生徒や教職員についても、参加を控える。参加者は当日の朝自宅で検温をし、「感染症対策チェックリスト」を顧問に提出する。チェックリストは顧問が管理し、大会終了後最低2週間は保管する。大会本部が提出を求めた場合は提出できるようにしておく。なお、チェックリストは感染症防止対策のみに使用し、個人情報の管理に十分に注意する。

顧問教員は、大会終了2週間は大会に参加した者の体調確認を継続して行うこと。

報道関係者など大会本部が会場への立ち入りを許可した者には、当日の検温と「感染症対策チェックリスト」の提出を求める。

2 参加者の範囲

大会の参加者は、選手、監督（介添えとして射場に入る者。生徒でも可）、補助員、顧問教員、学校が認めた部活動指導者、大会役員に制限する。原則として、応援の生徒・保護者の大会会場への立ち入りは認めない。

3 更衣室の使用

十分な広さの更衣室を確保することが困難な施設が多いことから、大会会場へは原則競技の服装で集合する。更衣室を設ける場合は、一度に使用できる人数を制限し、密にならないように注意する。（場合によっては係を配置し、人数を調整する）更衣室の入り口には手指消毒剤を設置する。また、室内の換気と参加者が触れる場所の消毒をこまめに行う。

4 開会式・閉会式

選手の会場滞在時間短縮と密を避けるため開会式行わない。大会運営や競技方法、諸注意は顧問が責任を持って選手に伝える（連絡不十分で選手に不利が生じても、主催者は対応しない）。閉会式は矢道に間隔をあけて並び行う。（雨天の場合は中止する場合もある）賞状は一斉に渡す。大会の講評は後日書面で伝えることとする。

5 大会全般の対策

- ・会場に到着したら、大会本部が用意した手指消毒剤で消毒をおこなう。
- ・会場では、競技中以外原則マスクを着用する。ただし、熱中症予防のため使用の有無は周囲の状況で判断する。
- ・選手待機場所は学校ごとに設け、一定の間隔をあける。待機場所では大声での会話はしない。
- ・ゴミにウイルスが存在する可能性があることから、ゴミは各自持ち帰ることを徹底すること。
- ・トイレ、手洗い場所には手指消毒剤と石鹸を用意する。また、参加者が触れる場所の消毒をこまめに行う。
- ・タオルなど物品の共用をできるだけ避ける。他人の弓具には触らない。共用で使用した道具は、使用のたびに消毒する。(消毒液は各校で用意する)
- ・飲食をする場合は相互の距離に注意し、大声で話をしない。飲料は各自持参し、1つの飲料を分けて飲むことはしない。飲食の前の手洗いと消毒を励行すること。

6 競技進行

(1) 招集・控え

招集場所に入り、競技を終えて招集場所から出るまで会話をしない。

第3控は射場外に設ける。選手は第3控に並ぶ前に消毒液で手指の消毒をする。第3控にイスは置かない。選手は最低1mの間隔を保って立って並ぶ。

射場内の第1控へは直接入場する(入退場時の揖は省略する)。選手相互の間隔は最低1mとする。

(2) 射手間隔

射手間隔は原則 1.8m以上とする。会場の状況により間隔がとれない場合は、コロナ対策を施して間隔を狭くすることができる。

(3) マスクの着用

行射中にマスクを着用することを認めるが、その際は、事前に顧問と安全に行射できることを確認しておくこと。

(4) 矢取り

矢取りは次の要領で行う。また、矢取りは原則教員または選手がおこない、補助員を置く場合は必要最低限の人数にする。

- 1) 矢取りを行うものは矢取り前に、消毒液で手指を消毒し、一定の間隔をあけて、矢取り道に並ぶ。
- 2) 的場へは間隔をあけて、看的小屋を通らず直接入る。矢取り後も間隔をあけて的場から出る。
- 4) 矢を矢返し所に選手ごとに置く。矢を置いた後、消毒液で手指を消毒する。
- 3) 矢拭きは選手が行う。矢拭きのための除菌シートとペーパータオルは大会本部で用意する。使用した除菌シートやペーパータオルは所定のゴミ箱に捨てる。

(5) 応援について

マスクをし、距離を空けて並び、応援は拍手のみとする。応援中の会話は控える。自校の応援のみとし、自校の行射が終了したら速やかにその場を離れること。

応援場所への入場は、選手・介添え・引率顧問・指導者のみ可能とする。

7 大会役員

- ・大会役員は全員マスクを着用する。
- ・トランシーバーのイヤホンマイクは係の数だけ用意し、共用をしない。
- ・マイクを使用する際は、使用する者が変わると同時に除菌シートで消毒をする。
- ・放送席と射場審判席は前面を透明アクリル板で遮へいする。
- ・「記録」の業務は原則教員がおこなうが、十分な間隔が確保できる場合は補助員でも可とする。
- ・看的は原則教員が行い、看的所へは1人だけが入る。

8 大会要項どおりに実施できない事態への対応

- (1) 上部大会の予選会を兼ねる大会で、当該大会の開催が中止となった場合も、県教育委員会や高体連から対外活動禁止の指示がない限り、予定通り大会を実施する。
- (2) 感染状況により予定していた会場で実施できない場合は、次のとおり対応する。
 - ①地区予選が実施できない場合
他の会場または学校道場で実施。それでも不可能な場合は(3)による。
 - ②本選の実施ができない場合
各地区の公共道場または学校の道場を会場とし、第1日目を予選とし地区ごとの分散実施とする。第2日目は個人決勝戦・団体決勝戦とし、実施可能な会場に集合して行う。
- (3) 参加校が集まっての大会実施が困難な状況になった場合は、通信制(リモート)により大会を実施する。その際の詳細は別途指示する。